

会議録（要点筆記）

会 議 名	令和元年度 第2回 米原市子ども・子育て審議会
開 催 日 時	令和元年6月4日（月） 19時00分～20時40分
開 催 場 所	米原市役所山東庁舎2階 会議室2AB
出席者および欠席者	出席者：西川正晃委員（会長）、木船良元委員（副会長）、 辻みや子委員、村山善信委員、福永ひろみ委員、 戸田光子委員、久保田弘美委員、四方由美子委員、 山口浩徳委員、筒井宏明委員、木寺真史委員、南部大輔委員、 丸本光雄委員、東出妙子委員 事務局： こども未来部長：田中博之 子育て支援課：阿原麻木子課長、西村早千子、高橋仁 子ども家庭相談室：宮野室長 保育幼稚園課：松居靖夫課長、山田直樹、清水一美、 高畑光昭 欠席者：岸根千代美委員
議 題	（1）第2期米原市子ども・子育て支援事業（骨子案） （2）重点施策 （3）今後のスケジュール
結 論	- 委員の意見を基に計画を修正する。 - 委員の意見を重点施策に反映し、次回の審議会で提案する。
審 議 経 過 事務局	1 開会 皆さん、改めましてこんばんは。本日は、何かとお忙しい中、また5月23日に初めての会議をワークショップ形式でやらせていただき、2週間もたっていない状況の中で、本当に夜分お疲れのところ第2回審議会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。また、本日は大変蒸し暑い中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。それでは、定刻になりましたので審議会を開催させていただきます。西川会長から御挨拶をお願いいたします。
会長	皆さん、こんばんは。先ほど御挨拶もありましたように、5月23日に第1回で、第2回が6月4日ということで、2週間足らずの間に子ども・子育て会議が開催されるのはあまり例がないと思います。しかしこれは意義がありまして、第1回で皆様がどういうことを大事にしたいかということを出していただきました。具体的に話を聴くということは、他の市を含め米原市でもあまりないことです。今日の骨子案の中で、特に重点施策を、米原市はどのように、何を大事にしたいのかを具体的に描き出すことが狙いです。今日も皆様それぞれの立場からの御意見を期待している次第でございます。どうか皆様御協力のほどよろしくお願いします。

事務局	ありがとうございました。5月23日副会長の木船様は御欠席でしたので、一言御挨拶をお願いします。
副会長	こんばんは。第1回私用で御無礼させていただき誠に申し訳ありませんでした。私は長岡学園の園長の木船でございます。園長と申しまして、名前ばかりで皆様の方が子育てについて重々御承知かと思います。お力になれるかは分かりませんが、皆様とともに一緒に進めていきたいと思っています。どうか御協力よろしくお願いします。
事務局	ありがとうございました。米原市子ども・子育て審議会条例第6条第2項によりまして、委員の半数以上の出席が必要となっております。本日の出席員数は委員15人のうち12人となっておりますので、本会議が成立していることを御報告させていただきます。また、本日の会議は、米原市附属機関の会議の公開に関する要望に基づきまして公開で行いますので、傍聴者の入室を認めております。今のところはございません。また、審議会の議事録の要点につきまして、無記名で市の公式ウェブサイトにて公開致しますので、御了承をお願いします。それでは、ここから議事に移りたいと思います。ここからの進行は、条例第6条第1項によりまして、西川会長にお任せしたいと思いますので、会長よろしく願いいたします。
会長	それでは、議事を進行させていただきます。皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、会議次第の2（1）第2期米原市子ども・子育て支援事業（骨子案）について、事務局から説明をお願いします。
会長	2 議題 （1）第2期米原市子ども・子育て支援事業（骨子案） 【事務局から、資料1に基づき説明】 予定の2倍以上である30分かけて説明いただきました。御意見、御質問等がありますでしょうか。骨子案で内容はこれからということで、内容を含めて9月に案が出てくると思います。構成等はいかがでしょうか。また、本文を作成するにあたり留意した方がいい点がありますか。私からですが、平成31年と令和元年が混在しています。ある市では、今年度は平成31年度でいくこととなっていますが、米原市はどうなっていますか。
事務局	5月1日以降は令和元年度で統一したいと考えています。
会長	わかりました。そうしますと、例えばこの計画は残るものですので、第1期計画と比べた時にわかりやすくなるように、例えば平成31年度（令和元年度）とするように工夫していただきたい。もう1点は、アンケート

事務局	トの結果をまとめていますが、18 ページの放課後の過ごし方の希望について、就学前児童は低学年の希望と高学年の希望を比べています。あえてこのように低学年と高学年で出してくる意図は何でしょうか。 18 ページ放課後の過ごし方の希望について、左側のグラフは低学年の希望と高学年の希望 2 本立てとなっています。抜粋版としてページを省略するためにひとまとめにしてしまったという経緯があります。右側の小学生のグラフが前回と今回の比較で、誤解を招くおそれがありますので、低学年の希望について前回と今回を比較するようなグラフに変更させていただきます。
会長	私もその方がいいと思います。ここで意図しているのは、放課後児童クラブがこれだけ前回よりも希望者が増えているということです。先ほど事務局からありましたように、重点施策あるいは重点事業でそれを述べるための資料になるべきですので、そのような見せ方を注意していただきたい。後はなかったと思います。就学前と小学生、あるいは前回と今回を並列して比較する意味があるかどうかを考えていただきたいと思います。ありがとうございました。それでは、(2) 重点施策について、事務局から説明をお願いします。
会長	(2) 重点施策 【事務局から、資料 2 に基づき説明】 重点施策と重点事業の 2 つが出てきましたが、施策というのは少し抽象的で、事業というのは具体的な行動で、どちらでもいいので意見を下さいということです。それとここで描き出した事業というのは、今までは参加者が何人で何パーセントというような数値の管理しかしていませんでしたが、重点と思うところは、参加者は多かったが満足度は高かったのかをしっかりと審議会で管理していこうと。だから、ここで決めたことは絵に描いた餅ではなく、ここでチェックしていくということになります。ですから、これは大事にしたいからここはちゃんと見ていきたいという御意見を是非それぞれの立場で出していただけたらいいと思います。例えば前回、認定こども園は増えているけれども、認定こども園とは何という意見が付箋紙では多かったと思います。目標 2 「ゆとりのなかで安心して子育てのできるまち」の保育サービスの部分で、認定こども園の機能というものをちゃんと市民の皆様に周知できているか、あるいは逆に認定こども園自身がちゃんと子育て支援の機能を満たしているのか。現場の先生もおられますので、例えば園や地域、市町によっては、子育て支援室をつくるだけで機能していないところがあります。しかし、法律で決められて地域の拠点となって、子育ての支援をやってくださいということを市民の方は御存じない。ここは重点施策として、あるいは重点事業としてしっかりとやっていかないと、質の管

	理ということで大事ではないかと思います。こういうことを言うと、重点になって注目していただけますが、
委員	情報提供のことですが、前回のワークショップでも出ていましたが、子育てのいろいろなサービスは沢山してもらっていますが、情報がうまく行き届いていないというところがあったと思います。現状、どういう方法が行き渡りやすいかというのを調べて、それが届いているかというところも見ていただきたいと思います。
会長	ここで言っていただいたことが、記録に残り9月の重点目標に案として出される可能性が高いですので、是非それぞれの立場で御意見を願います。
委員	今まで話題に挙がってきたことですが、働くお母さんをサポートするという意味でも放課後児童クラブが大変重要になってきています。子ども園は大分充実しているようですが、職員が足りなかったり子どもが増えて長期休みが大変と聞きます。
会長	今の問題ですと、放課後児童クラブの待機児童を出さないという問題だけではありませんよね。質の部分も加えてお願いします。
委員	以前の市の説明で、面積の制約で定員を決めているとありました。それも大事だと思うのですが、クラブの職員について、指導が行き渡っているのか。私は少し手伝いに行ったことがあります。学校の先生の言うことを聞かないお子さんたちが、普通のおばちゃんのことを聞いてくれることもなく、しかも放課後の時間帯で気の緩みもあります。放課後児童クラブなので家庭のような雰囲気をと聞いたこともあります。集団生活の中で家庭と同じというのはなかなか難しく、クラブによって宿題ができたりできなかったり、クラブの先生は大変な思いをされていると思います。その中でちゃんと子どもが安心して過ごせるのかという質の面がすごく大事だと思うので、そこをもう少し細やかに考えていただきたいと思います。
会長	放課後児童クラブはこの会議でもよく出てきますが、質の部分をどのようにチェックしていくかというところのお話です。いかがでしょうか。どんどん出していただくとよいと思います。前回のワークショップのことでも構いません。遊び場や公園についてはよろしいですか。
委員	遊び場についてですが、確かになかなか近くに遊ばせるところがない。夏場に泳がせるようなプールがない。一番困るのは土日に雨が降った時で、どこに行ったらいいのかというのが今一番困っているところです。

会長	遊び場、公園がないというのもよく出ています。彦根や長浜に行きますというところを、どのように重点として考えていくかというのもこれからのことだと思いますが、まずは出していただくことが大事だと思います。
委員	冒険遊び場ですが今も重点事業として挙げていただけていますが、始める時には補助金を出していただいて、人手の補助もあったのですが、実際はそんなに増えていません。結局お金を出していただいても、人がいないとできないです。特に冒険遊び場というのは、きちんとした考えの下に見守りのできる大人がいないと成り立っていかないので、重点とするならお金を付けていただくだけでは駄目だと思います。
会長	冒険遊び場というのは、結局子どもの居場所づくりという観点があるかと。そう考えると令和の時代に第2期の計画が続いていく中で、子ども食堂というのも外せない視点だと考えています。子どもの貧困という部分だけではなく、地域の拠点づくりの一環という視点で見た時に、これからもっと大切になっていく事業だと思います。第2期にどのようなかたちで含めるかというのは難しいかもしれませんが、子ども食堂は何らかのかたちで重視する必要があると思います。
委員	子育てサークルへの取組で親同士のつながり。1人で悩んでしまうところを当事者同士がつながることによって、その集団の中でお互いに助け合うことができるのかなど。情報のやり取りや移動手段を持っている方々なので、そういう集まるきっかけを積極的に作っていくことを第2期では大事にさせていただきたいと思います。それから、アンケートの中で地域の人々の力でいろいろな体験をしたいという回答がありましたが、子どもと地域がつながる前に親と地域も何かつながっていないといけないと思います。地域の中には子どもへの支援を何かしたいというボランティアはおられます。育児中の保護者と地域の大人がつながる関係ができることによって、地域の子どものとおっちゃん、おばちゃんがつながっていろんな体験ができる。子ども食堂としては、子どもだけでなく親も一緒に行けるといいのではないかと。実際に昨年度で補助は切れているので、子ども食堂を続けられないのではないかとこのところは結構出ています。そのあたりのサポートも必要だと思います。
会長	子ども食堂は社協だろと思われるかもしれないが、それでは限界がある。市全体が支援していかなければ続けられなくなってしまふ。そういう意味で子育ての事業として市も関与して支えていく。地域の拠点として、次の事業計画では抜きにはできないのではないかと思います。社協の問題ではなく、市全体で取り組んでいくことが必要と私は強く思っています。

	す。また、4「子どもが心豊かにのびのびと育つまち」において、不登校、ひきこもり、青少年への対応で、学校に通っている時はいろいろと相談に乗ってもらえる。ですが、30代、40代、50代がひきこもっていると地域の支援が全く受けられない。よく私たちは「切れ目のない」と言いますが、学校を卒業したので終わりですではなく、地域、特に市がどこまで見守って行けるのかを事業として考えていかないと、皆が幸せになれない。切れ目だらけというような事業になってはいけません。
委員	働くお母さんを見ていて、すごく大変な社会になっていると感じます。働きやすい環境や働く保護者を応援するような施策というのにも必要になってくると思います。皆さん子どもを育てながらお家を建てて生活しておられます。子どもが病気の時に休みやすい環境や施策があると、もっとゆとりを持って子育てに向き合ってもらえると感じています。
会長	企業の意識改革というのを市がどのように支えていくのかということのも大事になってきます。例えば、優秀な企業を市で表彰するなど。企業を行政としてどう支えていくか。それができれば、企業も働きやすい職場環境になる。そういうところまで広く支えていく、裾野を広げていくという御意見、ありがとうございました。
委員	子育て支援センターは未就園児を対象としていますが、例えば未就園の0歳と就園している4歳のきょうだいで訪れた時に、年齢によって遊びが異なります。支援センターは未就園児の親子を対象としているので、上の子には遠慮しながら遊ばなければならないという現状があります。その子達をどこで遊ばせるのか、小学生の子どもを持つ親などいろいろいるので、今は小さい子ばかりを対象にしています。小学生のお子さんを持っていようが0歳の子どもを持っていようが遊べるような大きな施設があれば、うちの子は未就園じゃないからという遠慮はなくなると思います。いつでも行けて、遊具もあり中でも外でも遊べるような施設があれば良いと思います。もう一つは、おじいちゃんやおばあちゃんのサロンの話も出ましたが、母親が仕事で働いているので祖父母が一日お子さんを連れているという御家庭もございます。若いお母さんからすると今の子育てと昔の子育ては若干違いますので、祖母に見てもらうのはいいが飴は食べさせてほしくないとか口移しは嫌だとかいろいろあります。若い夫婦は働きに出ていて、祖父母が子どもを見ている支援センターもあるということや、今の子育てについてわかる冊子のようなものがあれば祖父母も子育てしやすくなるかと思います。
会長	今の話を聞くと数値では無理ですね。地域で子育てをしていく環境をどのように行政としてできるかという事業・施策の提案を頂けたと思います。

委員	以前の放課後児童クラブに比べて、米原地域は当初予定していたよりもすごく増えていると前回聞きました。その中で質のチェックを利かせるというのはすごく大事で分かるのですが、本当に必要かどうか昔から思っている。地域の子どもは地域で見守る中で、地域ごとに帰って来る場所が必要だと思うのです。例えば公民館の中でお年寄りが昔の遊びをやってくれるとか、そこに子ども達が帰ってくるようなシステム作りをしていかないと、放課後児童クラブはパンクしていくと思います。
会長	名前はいろいろですが、子ども食堂も結局はそういうことだと思います。地域で子どもにおかえりと言える場所、冒険遊び場というのもそうだと思うのですが、そういう視点を今日は御意見いただいていると思います。
委員	放課後児童クラブで子ども達が宿題をできて、家に帰って食事を楽しめるので、クラブの働きはすごく大きいと思いますし、夏休みに至ってはきちんとした生活リズムの中で生活できる。もし、共働きで出ておられて、家に子ども達が放っておかれたら生活リズムが崩れ昼夜逆転という子どもたちが出てくる。2学期運動会が始まる時に大変な状態で学校に来るようなことも防いでいる。人もなかなか確保できないと思いますが、人をしっかりと確保していただいて受け皿を作っていただきたいと思います。子どもたちはきちっと生活できていると、きちっと勉強できて生き生きとしてくる。そういう意味で、土曜日にスポーツ少年団をとというのもありますが、送れる家庭はできるけれども送れない家庭はできない。まいちゃん号に子どもだけでも乗れるようなシステムを作っていたら、そのような家庭でも使っていただけたらと思います。そうすると3地区連合で1チームという今のスポーツ少年団の状況も改善されるように思います。金がかかってしましますが、人などを作っていただけたら子どもの生活のリズムがきちんと守れるように思います。是非そういった支援をしていただきたいと思います。
会長	人への支援という御意見でした。例えば人を育てるという面で、うまく機能していないところは多々あると思います。ファミリー・サポート・センターはだんだん使いにくくなっているという意見もありますし、提供会員数はどうなっているかとか、うまく人材を使えているかというのはチェックしにくいと思いますが、そういうものも考えていけたらと思います。
委員	子育ての相談は民生委員へというのが0.4パーセントとありました。児童民生委員として高齢者のことだけでなく子どもと関わる役割があるのですが、最近はプライバシーのこともありなかなか問題に出せないようです。民生委員の役割として子どもと関係することがほとんどないとい

	うことになりますが、問題は必ずどこかで起きていますので、民生委員が上手につなげていけたらと思います。また、先ほどからいろいろな話題が出ていますが、どうしても目に見えないところで虐待が起きていたりということがあると思うので、全体の内容ではなく、なかなか見えにくい家庭に、表に出にくいようなところにもサービスが届くような内容というのも考えていただけたらと思います。
会長	出てくる人だけでなく出てこない人や、自ら来られない人にどのようにサービスを行き届けるかというのも難しい話でありまして、それが重点になるかは分かりませんが意見としていただくことは大事かと思います。
委員	病児・病後児保育の関係で以前と比べてかなり進んでいるように思うのですが、どなたか分かりますか。使い勝手はいいのか。昔はなかなか使えなかった。
委員	近江地域で「ふくしあ」がやっておられますが、お母さん方も慣れてこられて、予約されて受診されるお子さんが増えて来ていると思います。他の地域はわかりませんが、近江地域は結構利用されていると思います。
会長	かなり充実されていますが、現状どうなっているのか、進捗の把握をお願いします。
委員	学校のお便りの中で自尊心が非常に低い子が多いと書いてありました。自尊心というのは生き抜く上で一番大事で、何か困難に当たった時に一番支えになる、柱になるものだと思います。その中で自尊心が低い子どもがいるというのは、非常に悲しいことだと思います。このアンケートを見させていただくと、65 ページの間の4で子どもに特に身につけてほしい力、大切にしてほしい力というところでかなり高い割合でルールやマナーを守ることとありますが、あまりここを重点的にやりすぎると自尊心というのは逆に摘み取られてしまうのではないかと思います。おおらかに親や地域が子どもを支えてあげないとそういったものは育たないと思います。家庭の中でもそういったことが重点的になってくるとというのは、子ども達にいろんなプレッシャーがかかっている。保護者の方の余裕の無さが影響してくるのかと思います。何かをしてほしいわけではないが、子ども達の自尊心が低いというのはショックでしたので、どうにかならないかと思っています。
会長	このアンケートの結果は私も同感で、幼児教育の研究者の立場でお話すると、幼児期の体験、自ら環境に働きかけていく体験活動の中で、子どもの自尊心が育っていくというのは明らかでありますし、今回の指針

会長	要領の改訂は全部そこに根づくものであります。ですから、幼児教育の本質というのは本当に市民の皆さんに啓蒙できているかどうか。もっと言うとそれが各園で実践できているかどうかということが問われています。子ども達の最善の利益のためにしっかりとやれるか。貴重な御意見いただいています。 時間がきたので大変申し訳ないですが、今日の御意見を基に今度重点項目を御提案いただくことになっていますので、そこで重ねて御意見をいただければと思います。短い時間でしたがたくさん御意見をいただき大変ありがとうございました。
事務局	(3) その他 【スケジュールについて確認】 それでは閉会にあたりまして、副会長に御挨拶いただきます。
副会長	《副会長挨拶》
事務局	ありがとうございました。これにて会議を終了いたします。 閉会

会議の公開・非公開の別	■公開 傍聴者： 0人 ☐一部公開 ☐非公開 一部公開または非公開とした理由 ()
会議録の公開・非公開の別	■開 示 ☐一部開示(根拠法令等：) ☐非 公 開(根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 ☐有 ☒無 録音テープ記録 ☒有 ☐無
担当課	こども未来部子育て支援課